

地域発のアグリテック企業創出を図るため、学生部門を新設！ アグリテックコンテストの提案を募集します

全国有数の農業地域、愛知県東三河地方の中心都市・豊橋市では令和 4 年度より「TOYOHASHI AGRI MEETUP（豊橋アグリミートアップ）」を進めています。

4 年目となる今年度も、「未来の農をつくる」と題して、農業課題を解決するアイデアを募集するアグリテックコンテストを開催します。

賞金総額 1,000 万円の一般部門に加え、地域発のアグリテック企業創出を図るために、今年度は、賞金総額最大 200 万円の学生部門を新設し、市内大学の学生等から課題解決の提案を 8 月 25 日（月）より募集します！（一般部門は 9 月 22 日（月）より募集します）

なお、学生部門で入賞したチームには、アイデアの実証のための開発支援金と、今後一般部門に提案できるようなビジネスアイデアを作り上げることを目的とした専門家による最大 2 年間の伴走支援の権利を授与します。

ポイント① アグリテックコンテスト（学生部門）に参加する市内大学生等を募集します！

1. 対象者

個人での応募・・・市内 3 大学の学生（大学院生を含む）

グループでの応募・・・市内 3 大学の学生（大学院生を含む）含む学生グループ

2. 応募資格、スケジュールなど

別紙チラシ参照

3. 賞金（支援金）、入賞チーム数

総額最大 200 万円（11 月から開始するガバメントクラウドファンディング®で集まった金額内で配分）、2 チーム程度

4. 申し込み方法

以下の URL または二次元コードを読み取り、応募フォームからお申込み下さい。

<https://forms.gle/LjdyeniGFVuCQt8j7>



【10/18 〆切】

ポイント② アグリテックコンテスト（一般部門）に参加するスタートアップを全国から募集します！

1. 対象者

豊橋市の農業関係者（生産者、JA、農業系事業会社、等）が抱える課題の解決や改善に向けたアイデアを持ち、その実現のために農業者と連携して取り組みを実施できる個人（学生含む）・法人の方

2. 応募資格、スケジュール、審査ポイントなど

別紙 1 参照

3. 賞金（支援金）、受賞企業数

総額 1,000 万円、3 社程度

4. 申し込み方法

以下の URL または二次元コードを読み取り、応募フォームからお申込み下さい。

<https://forms.office.com/e/RiBHwpfKX7>



【10/20 〆切】

ポイント③ 課題解決に取り組む農業者等と実証実験に取り組むことができる！

豊橋アグリミートアップに意欲的に参画するパートナー農業者をはじめ課題解決に取り組む農業者等と協働し、新製品・新サービスの開発に向けた実証実験に取り組むことができます。

参考

《TOYOHASHI AGRI MEETUP とは？》

地域の農業関係者の課題や協業ニーズを踏まえて、地域農業関係者と全国の技術や解決策を持つアグリテック企業等が共創し、地域農業の発展につながる新製品・サービスの開発を目指す取り組みです。

これまでの3年間で累計154件の提案があり、延べ239名の農業関係者が本事業に参画するなど、地域関係者を巻き込みや市内外の認知度を向上させることができました。

TOYOHASHI AGRI MEETUP の流れ

マッチングプログラム (9/1)

農業者の課題・協業ニーズ抽出

アグリテックコンテスト (9月~1月)

スタートアップからの提案募集、選考、入賞者確定

交流会 (10月、3月)

農業関係者とアグリテック企業の交流機会を提供

※アグリテックコンテスト後に共創プロジェクト組成。翌年度から実証開発開始。

※専門家による過年度アグリテックコンテスト入賞企業6社への実証開発支援を並行して実施（別紙2参照）。

問合せ先 地域イノベーション推進室 室長補佐 小野（電話 0532 - 51-3155）

別紙1 アグリテックコンテスト（一般部門）募集概要

1. 募集する提案について

以下の内容を満たす、豊橋市での農業イノベーション創出に資する提案を募集します。

- ・ コンテスト応募の翌年度に実証実験の開始が可能な提案
- ・ 既存の製品・サービスのみの提案ではなく、豊橋市の農業課題解決に重点を置き、未来の農業をつくっていく提案
- ・ 実証開発の開始から2年後の社会実装を目指す提案

2. スケジュール

エントリー受付開始	令和7年 9月22日（月）
エントリー〆切	令和7年10月20日（月）
事前審査期間（書類審査・面談審査）	令和7年10月21日（火）～12月中旬
ファイナリスト決定	令和7年12月上旬
コンテスト・表彰式	令和8年 1月27日（火）@穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
実証実験の計画策定	コンテスト終了後～令和8年3月中
実証実験の開始	令和8年4月～

3. 事前審査ポイント

審査項目	審査	審査ポイント
実用性・導入可能性	書類・面談審査 共通	提案の技術・サービスは豊橋の農業現場で役立つものであり、豊橋の農業現場の課題が解決できると感じられるか 豊橋市の農業関係者において、コスト等の観点から技術・サービスの導入・試用が見込めそうか
新規性・独創性		技術・サービスの提案に、新しい技術やこれまでにない視点が含まれているか
市場性		豊橋市及び日本の農業の市場（将来を含む）を踏まえて、普及が進みそうなサービスか
チーム体制		プロジェクトを推進する体制があるか チームメンバーは適切な人材がそろっているか
資金使途		予定している資金使途は適切か
実証価値	面談審査のみ	未実証の部分があり、コストをかけて実証実験をする価値があるか
市内農業者とのマッチングの確度		コンテスト終了後、市内農業者等との共創による実証開発に進めそうか
意欲・熱意		中長期で当地域の課題解決に思いをもって取り組みそうか 面談を通じて、応募者の情熱が伝わってくるか

4. 解決を募集する課題の公表について

令和7年9月22日（月）に以下 TOYOHASHI AGRI MEEETUP の専用ホームページに掲載しますので、ご確認ください。

<https://toyohashi-agri-meetup.jp/contest>



別紙2 過年度アグリテックコンテスト入賞企業への実証開発支援概要

採択 年度	企業名	概要	進捗
R 5 年度	株式会社 エンドファイト	当社が開発する微生物資材 DSE（植物共生細菌）を用いて、いちごの周年栽培の実現と、高付加価値ブロッコリーの栽培検証を行う。	いちご農家、ブロッコリー農家、花き（バラ）の関連でイノチオ農業中央研究所（イノチオ精興園）へ DSE 資材を提供し、それぞれ効果検証中。次年度から一部量産を開始予定。
	輝翠株式会社	AI 搭載農作業ロボット「Adam、Mini Adam」を活用し、次郎柿農家など果樹生産者の作業負担の減少を検証する。	次郎柿農家の圃場で、除草剤散布作業や追従モード走行等の実証を実施。今年度から生産者向けの販売及び市内企業との連携により「Adam」のシェアリングサービスを開始。
	株式会社 FieldWorks	当社開発の畝間対応小型草刈ロボット「ウネカル」による、作物の畑の畝間における除草作業の課題解決に向けた検証を行う。	今年5月にキャベツ、ブロッコリー農家等と走行等の実証を実施。そこで生まれた課題について、改良を加え、7月に同様の実証を実施。農家からのニーズが多かった除草剤散布・防除専用ロボット「ウネマキ」を開発。9月以降にもさらに改良を加え実証予定。
R 6 年度	SACMOTS	農薬量や肥料量を1/10にする新技術「PDDS 技術」×「環境記憶種子」により、低農薬・低肥料で高収入・高付加価値の実現に向けた検証を行う。	「PDDS 技術」について、トヨタネ株式会社と作物の栽培テスト等を実施。また、「環境記憶種子」については、年度内にイチゴ農家と実証予定。
	株式会社 WAKU	グルタチオン肥料を活用することで、生産者の肥料削減効果や生育促進効果を促し、コスト高騰問題や猛暑対策の貢献に向けた検証を行う。	今年7月に、キャベツ、ナス、ラデッシュ、ブロッコリー、小菊農家等へグルタチオンを提供し、8月頃から検証予定。
	株式会社 terraform	ハイドロゲル技術を用いた新資材の開発により、水・肥料の効率化、少量化を実現し、生産性の向上に向けた検証を行う。	イノチオホールディングス株式会社と新資材に関する NDA を締結。今後、市内農家のほ場等で実証予定。